

を信用あり、權威ある委員會が報告してをる。それだから取付を食ふと一遍に參つてしまふ。有名な英蘭銀行でも今迄に四度も支拂停止をやつた。それは元來無いものを融通してゐるのだから、取付が來ると停止するより外に仕方がない。

それで悪口といふものは「世界中の銀行は公認の詐欺機關だ」とヨーロッパでは言つてをる。

いつでも預つた金を返すといつて約束して置き乍ら、イザ返せといふ時には返せない、支拂停止をやる。これが個人がやるなら直ぐ牢へ入れられるが、銀行だといふと同じやり方をしてゐ乍ら重役などは賞與を受ける、洵に珍らしい機關だと思ふ。斯ういふものは須らく國營にした方が正しいことが出來ると考へる。

金銀貨は未開時代の遺物

貨幣制度の將來については、目下世界各国で専門家がいろ／＼研究してゐるやうであるが、私は全く門外漢であるから詳しくは知らない。要するに今の貨幣といふものは昔の物

資缺乏時代に物資の生産を盛んにするための必要から出來たものであるが、今は昔と違つて物資の不足どころか、大いに過剩を來してをる時代であるから、今日は消費を盛んにするための貨幣をつくるといふことに歸着すべきではないかと思ふ。生産のための貨幣を轉じて消費のための貨幣をつくる。それには金でも、銀でも、あんなものを根本にするといふことが非常な間違ひで、あれはいはば野蠻未開時代の遺物であつて、今日の文明世界にとつては不適當である。

金なども値段が始終變るものであるから、あれを根本にして紙幣などを發行されては堪らない。これはさういふものを土臺とせず、信用を土臺として貨幣を發行すればよくはないかと考へる。

役人の手に負へぬ失業問題

失業救済といふやうなことは現在の役人には出來ないと思ふ。役人は學校で机の上で書物を読んで、さうして役所に入つて人民の租税で生きてをる人間であるから、實世間のこ

とは何にも知らない。これに失業者の世話をさせようといつても出来やう筈がない。

それから事業の統制などといふやうなことも役人にさせてゐるが、これも學校を出て一生給料を貰つて暮らす人間にやれよう筈がない。民間で小僧から叩き上げてさん／＼其道で苦勞したものなら出来ると思ふ。其點になると池田君（前藏商相）などは少しはいいと思ふ。併しこれも餘り苦勞してをらない。學校を出ると直ぐ三井に入つて給料生活をした人であるから。……外の役人は恐らく何にも知らぬだらう。本當に生きた社會を知らないから、役人にまかせて置けば失業者は殖えるだけである。今に全國生きて行けないといふことにでもなれば、又特別の人間が出て来るだらう。一方では金が儲かつたといつて藝妓買ひをし、酒や煙草を飲んで有頂天になつてゐるやうな精神状態では何にも出来ないと思ふ。

猶太人排斥問題は愚

猶太人は各國が當り前に正しい待遇さへすれば、特別に團結する氣遣はないと思ふ。彼

等はイギリスにをればイギリス人になり、アメリカにをればアメリカ人になる。純粹な其國人に成り得ると思ふ。餘りそれを苛めると團結する。イギリスは昔から猶太人の内閣大臣が出る。イギリスに對して忠義を盡した有名なデズレリーなども猶太人である。

現在のチエンバレン内閣にも猶太人がをるが、皆忠義者である。

日本人の中にも、もとを探ねると朝鮮人もある。支那人もある、アイヌ人もあるが、皆今では同じようになつて兄弟みたいになつてをる。であるから日本をして猶太人を特別にどう扱ふかといふ必要はあるまいと思ふ。私は日本人の中にも猶太人は大分入つてをると見てゐる。いつ頃入つたか分らないが、猶太人以外には見られない隆い鼻や日本人には有り得ない體格を持つた人が日本の貴族社會にある。あれは皆猶太系統の人ではないかと思ふ。

猶太人が日本に入つて來ても日本に忠義を盡す以上は、これをどう扱ふかといふことは別に問題でないと思ふ。唯猶太人だからといつて、謂はれない排斥をすることはいけないと考へる。世間では猶太人が何か非常な陰謀をやつてをるといふやうなことをいふが、こ

これは多くは何か爲めにする議論であつて、公平な觀察ではないと思つてをる。

日本の支那化

現在お互の生活は多少支那化してをる。チンヤコロなどと悪口し乍ら實は其の乾分になつて居る。

今日は支那化した人間も精神的には大分直つたけれども、明治二十七八年の日清戦役前までは、我が國人中の智識階級は、精神的には支那のお弟子であり、支配下に在つたといつても好い程の状態であつた。其頃までは我が智識階級の大部分は漢學者であつて、孔・孟を聖人と尊び、あんな偉い人は、日本などには絶対に生れないものと考へ、其お弟子となることを名譽として居つたのである。

其の最も甚だしい事實を一つ述べて見よう。私は元來新聞記者として世に出た人間であるが、其當時の新聞の社説は、皆な漢文くすしで書き、今のやうな言文一致の文章ではなかつた。今はあんな文章を書く人はなくなつたが、當時は「……それ然り、豈それ然らん

や……」といふやうな文章であつた。これは漢文に假名を入れて読み易くしただけであるから、其文章は漢語即ち昔の支那語を正しく使はねばならぬ。

さうしなければ文章にはならないものと思つてゐたから、私の居る新聞社今の報知新聞であるが——などでは支那人を雇つて置いて我々の文章を直させたのである。支那の文が日本に入つてから千四五百年になるが、どんな優れた學者でも、漢詩漢文に於ては遠く支那人に劣つてゐたのである。

水戸の大日本史の如きも、朱舜水と云ふ支那人の手を借りて出来てゐる。現在では我が國人は支那を崇拜せざるのみならず、却つて之を馬鹿にしてゐるが、漢語を使はなければ文章は勿論、演説も出来ない。日本語の大部分は元來漢語から來たものであるから、無理もない。兎に角、私共の書く論説ですら、一應支那人に見てもらはなければ、不安心と思つたほど、我々の頭腦が支那化してゐたのである。

これは獨り當時の智識階級ばかりで無く、一般民衆も皆、知らず識らず頭腦が支那流になつて居つた。いや、今でもまだ成つて居る。一月になると正月と云ひ、元旦と云ふ、日

本には元來正月とか元旦とか云ふやうな言葉は無い。支那語を其儘持つて來たのである。年の始めから支那語を使つて支那式の七草をやる。「唐土の鳥の渡らぬ先に……」とか何とか歌をうたひ乍ら七草を叩いて粥を拵へて食べる。

これは元來鵝と云つて、禍を持ち來る惡鳥を避ける爲めの禁厭で、賈誼といふ秀才が長沙に貶謫された頃より廣く行はれ始めたものださうだが、日本にはソナ鳥はゐないからソナ禁厭は勿論不必要であるが、今でもまだ日本でやつてゐる。

それから、五月になると端午の節句、これも支那の儀式である。五月の五日に端午の祝といつて、軒並に菖蒲を葺いて粽を食べる。これは昔、支那に屈原と云ふ有名な人があつて、楚の懷王に仕へて信任されたが、後に讒者の言に依つて退けられ、身を汨羅に投じて自殺した。其記念日に追悼をするのが、端午の節句ださうである。又やはり五月の節句に飾り幟の鍾馗、あれも支那カブレより由來してゐる。

私の子供時代には今の東京には大學が無く、本郷の湯島に聖堂といふものがあつた。此所は孔子の像を祭り、學問の中心となつてゐた。徳川時代には丁度今の大學の様に、此の

聖堂を中心として、日本中から學生が集まつて來て勉強したのである。さうして卒業して國へ歸る時、西國筋の者は品川で留送別會を開いた。其頃本郷から品川迄は一日の行程であつた。ノソノソ下駄を穿いて品川迄行つて、彼處で泊つて、留送別會を開く。其時送る者は、大抵斯ういふ意味の言葉を述べたさうである。

「諸君はこれから西へ歸る、洵に羨ましい、聖人の國に近い所へ歸られる、洵におめでたう云々。今から考へると、随分可笑しいが、これほどまでに支那カブレしてゐたのである。

此魂が今日も尙ほ遣つて、大いに害をしてゐる。特に御同様は日常多く漢語を使ふため頭腦をボンヤリさせたり、法螺吹きにさせられたりする。口を開けば即ち萬歳といふ。萬歳はおろか、千年も生きるものはない。イヤ、百年生きる人すら少ない。又好んで「六合一字」とか「八紘一字」などといふ言葉を使ふが、何の事か私には分らない。當人達も多分知らずに使つてゐるのであらう。こんな言葉は支那人の如き法螺すきの民族には好いかも知れない。「白髮三千丈、憂ひによりて斯の如く長し」の類である。……然し、日本民

族には宜しくない。支那に少しばかり手が伸びると、忽ち「八紘一字」などと云つて全世界を征服したやうな言葉を使ふ。

其根本は全く支那文字から來るのである。支那文字を日本で使ふ以上、精神的に獨立させるためには、漢字と漢語を廢する必要がある。全世界に、あれ程不便な文字はない。西洋の文字なち、二十六字知れば、何でも書けるが、支那の文字は日本の小學校でも千四百字位教へなければならぬ。新聞社が如何に漢字を制限しても、二千字では新聞が出來ない。而も此文字が日本では一字が三ツにも四ツにも使はれる。洵に難かしい。之を使ふ以上は其音と訓とを覚えなければならぬ。

こんな文字を使つてをる以上は小學校六年の間に二年以上損をする。例へば普通の兒供が學校へ入つて小學の課程を終へるのに、従前は六年かゝつたが、盲人の兒供は點字で教へるから四年で卒業するさうだ。盲人は四年しかかゝらぬのに、目明きの悲しさには、六年かゝる。畢竟目明きは漢字といふ不都合な文字で教育されるからである。殊に漢文は頭腦を茫漢ならしめる。法螺を吹くには都合が好いが、眞面目な正確なことを書くことが出

來ない。御承知の如く國際條約は正確でなければならぬ。そこで支那と條約と結ぶ時には仕方が無いから、支那語の條約を作るが、それには必ず英語か佛語の翻譯を添付して、若し意味不明瞭な場合は英語若くは佛語に依るといふことになつて居る。

漢字を使ふと其意味のハッキリ分らない言葉を使つて平氣であることが第二の天性となり、文章を書くに方つては盛んに法螺を吹いて、事實に遠ざかる事になる。支那の歴史には政治的大奸物が出た時、之を殺して其肉を食つたなどと書いてあるのみならず、太だしきに至つては「肉を食つて骨に及ぶ」即ち骨までしやぶつたとも書いてある。人の骨を嚙るのは犬より外にあるべき筈がない。

然るに昔の日本人はそれを讀んで感心し、「歴史は斯ういふ風に書くべきものだ」と思つて、其眞似をした。だから漢文で書いた日本の歴史には支那流の法螺が多少加味されてゐる。多年支那流の言葉使ひを眞似た結果、今日でも尙ほ可笑しな言葉使ひをする。免職の事を斬首と云ふが如きも其一例である。

兎に角、漢字は、精神上、經濟上、非常に害を與へてゐる。故に何とかして早く其使用

を廢したいものである。漢字使用の弊害は、其本家本元たる支那人ですら之を認め、支那の學者中には、日本より先きに漢字を廣して見せると云つてゐる人もあるさうだ。

それから我國人が支那カブレをした結果、凡そ一千四百年前に、大化と云ふ年號を付けて、明治・大正・昭和の今日に至つて居る。我國には元來年號は無かつた。之をつけたのは支那の眞似である。又年號の昭和とか、大正とか、明治とか云ふ文字は悉く支那の堯典舜典其他の古典中より選み出した言葉であつて、日本語ではない。且つ支那では、昔から自國の年號を屬國に使はせ「正朔を奉ぜしむる」と云つて、屬國たる證據と致して居る。故に支那の古典中から支那流の目出たい文字を選み出して年號を付けるのを見て、支那人中には、日本を半屬國位に思ふものがあつたのも、無理はない。

斯やうに精神的に支那に服従する悪習慣は、一日も早く止めたいものである。私は明治天皇の御崩御の時、年號を廢し、中興の紀元として將來は何時までも明治維新と呼ぶことにしたいと考へて建議案を作つたが、賛成者が少なくて提出する事が出来なかつた。残念な次第である。明治大帝の紀念としても、それが最も好かつたと思ふ。年號の本家たる

支那では、既に之を廢した。

我國では歴史の年月が年號で書いてあるため、一々年表でも調べなければ何年前の事實か分らない。

實に馬鹿々々しき次第である。漢字を全廢する事は後れても仕方がないが、年號だけは一日も早く廢したいものだ。今日只今廢しても、少しも差支は生じない。

杜甫が「人生七十古來稀」と歌つたため古稀を祝ひ、七十七が喜字に、八十八が米字に似てゐるからと云つて、之を祝ふが如き、如何に支那カブレとは云ひながら、馬鹿々々し。

然し此等は別に害毒を流さないから、捨て置いてもいいが、漢文字や年號に至つては多大な損害を全國人民に與へる。世には漢字を廢しては困るといふ者もあらうが、少しも困らない證據は澤山ある。

急ぎで而も大切な要件は、現在でも悉く電報や電話で辨じてゐる。電報はカナばかりで漢字は絶対に用ひない。漢字を廢した後は、カナ又はローマ字を用ひれば好い。ドチラを

使つても漢字に優ること千百倍だが、將來益々世界的に活躍する爲めにはローマ字の方が好いだらう。

現在でもローマ字引の國語の字引が出来てゐるが、其便利なこと、イロハ引や五十音引の比類では無い。

私は國語字引だけでも、早くローマ字引に改作したいと思つてゐる。

わが『支那處分案』

私は明治の中頃に『支那處分案』といふ一書を公けにしたことがある。明治二十七、八年の支那戦争に就いては、私は非常に熱心な支那征伐論者であつた。私は明治十七年に初めて支那に行つて見て、どうしても一度支那を叩いて、彼の傲慢心を挫かなければならぬ、さうでないと日本は支那と眞の提携をすることは出来ない、といふ信念を持つて支那征伐を主張したのである。

明治十七年以來十年間主張して始めて十年後の二十七年になつて支那との戦役が起つた

のである。

其支那征伐論をやつた目的は當時の日本人の卑屈心と、支那人の傲慢心とを共に抛棄させて、本當の兄弟つきあひをさせたいと思つたからである。實際支那を叩きつけることは當時の支那の状態ではまるで嬰兒の手をネヂるよりもやさしかつた。私は明治十七年に支那に行つて實地を見てさう感じたのである。ところが世間は中々私などのいふことを聞いてくれないで、遂に十年かゝつた。其間に支那は大層強くなつた。同時に日本も亦強くなつた。さうして戦さが始まると日本は樂に勝てた。

併し私が最初支那征伐を唱へた頃は、まるで向ふには戦さの準備などなかつたのであるから、早くやつてをればもつと樂に勝てたと思ふ。

私が支那征伐を唱へた目的は、決して支那を苛めるためではない。當時の日本人は如何にも卑屈で、丁度今日歐米人を尊敬する以上に支那人を恐れ尙び、精神的には全く支那の奴隸といつていゝ程であつた。同時に支那人は日本をばまるで屬國扱ひにしてをつた。それも一面からいへば無理はない。前にも述べたやうに第一に年號などといふものを眞似し

て作つてをる。支那の正朔こそ奉じないが、堯典、舜典といふやうな支那の古典から文字を選んで年號を作る。

それ等の支那思想から日本人を獨立させるには講釋ではいけない。一ツ支那を叩きつけて日本人の獨立心を奮ひ起させる。さうして又支那人の傲慢心を挫く、といふのが目的であつた。そこで支那戦争を主張したのである。

戦争をやつて見ると、果せるかな、かつて私が主張した通り樂に勝てた。すると其時日本の智識階級の人々が大勢私の所へ聞きに來た。「孔子・孟子の出た支那には、逆も我々は敵はぬと思つてゐたが、どうして支那が日本に負けたのであらう」と不思議に思つて聞きに來た。それ程當時の日本人は意氣地がなかつたのである。

この戦争で日本人の卑屈心と支那人の傲慢心とを共になくして仲よくさせようといふ目的が見ごと達成されて、戦争が濟むと共に支那人も目覺めて何萬人といふ留學生を日本に送つて來た。後に私の友人になつた康有爲なども一生懸命になつて日支の親善に努力し、日支の關係が大層善くなつたのである。

ところで今日はどうもさういふ風に行かぬらしい。支那との戦さが幸か不幸か起つてしまつたから致し方ないが、今のやり方では何處迄やつたところで何處が到着點か分からな^い。支那と日本は仲よくするんだ、日支親善だと申してをるが、今のやうでは果して親善が出来るかどうか分からないのである。

今度の戦さで支那人は百萬人位は殺されたらう。其殺された人間の家族は日本を有難いと思ふかどうか疑問である。又其外に何千萬といふ支那人が生き死にの境目に立つてをる。これ等の支那人が本當に日本を有難いと思ふかどうか。さういふ支那人を相手にしてどうして親善をやるのか、其手段方法は私等には分らない。政府に於いてもまだ本當に研究中のやうである。一人々々では研究してをるに相違ないが、國としては本當の研究はこれからではあるまいか。

戦争といふものは單に戦さに勝つただけではいけない。戦争である以上、勝つことは勿論必要だが、勝つただけでは後に怨みを貽す。四億の敵を作る。ドイツがフランスに勝つてアルサス、ローレンスを取り四千萬人の敵を作つた。何十年経つても怨みは消えない。遂

に此前の大戦争となつて今度はフランスが勝つたが、ドイツの怨みを買つた。今日フランスは枕を高くして安んずることは出来ない。

日本と支那との関係も下手をすると、ドイツとフランスの關係の如くならぬとも限らない。一方は四億、此方は本國だけで七千萬、それは餘程研究すべき問題である。これを親善にするためにはいろ／＼な工夫が要る。

今は日本は強いが將來支那が強くならぬとも限らない。

明治以前に日本と支那とが戦をしたことが三度ある。一ツは北條時代で蒙古の兵が九州に攻めて来た。あの時日本は初め負けた。蒙古の兵は博多灣へ敵前上陸をやつた。當時日本の兵は最も強いといはれる鎌倉武士である、その強い兵が支那の兵隊にうまく勝てなかつた。

其次が太閤の朝鮮征伐である。太閤の兵は元龜、天正以來鍛えに鍛えた兵隊である。支那は明末の比較的弱い兵である。それでも加藤清正は蔚山で包圍され、小西行長は平壤で明兵のために敗れた。従つて今の日本人は其點から見れば一番強い。それといふのも日

本は早く目覚めて西洋の戦さの仕方を研究したが、支那はまだ十分研究してをらぬからである。併し今後は支那も大いに研究するだらう。其曉には強い兵が出来るかも知れぬ。

とに角、戦さは勝つと同時に後に怨みを貽さぬやうにするには戦さをやつてをる間にもう仲よくなれるやうな手を打つて置かねばならぬ。本當の政治家は皆さうする。ピスマークがオーストリアを征伐した時、勝つと同時に同盟を結ぶといふ手を打つた。フランスと戦つた時もさうしようとしたが、皇帝や周圍の軍人に妨げられて其折角の手が打てなかつた。其ためにフランスに怨みを貽すことになつたのである。此處が政治家に好い人があるとないとの違いである。何れにしても、日本は支那に對して早く次のよい手を打つて置かなければならない。

世界的飛躍は漢字全廢から

日本民族も適當に指導し、訓練すれば立派な民族になれると思ふ。

それには改善しなければならぬことは數限りなくあるが、最大の問題は言語の改良で

ある。繁雜極まる今日の言語をこのまゝにして置いては世界的に發展することは難しい。

漢字を一千五百位に制限すべしとの説は福澤先生が明治の初めに主張した所であり、又山田美妙齋は言文一致を提唱して、當時世間の非難攻撃を受けたが、今ではどこでも言文一致が實行されてゐる。世間ではあまり高く買はれてゐないやうだが、美妙齋の文化に盡した功績は中々大きなものだ。

此間山本有三氏の戦争と二人の女性といふ書物を読んで見たが、この書物は言語改良の趣旨から書かれたもので、用ひられてゐる漢字も大層少ない。山本氏のやうに文筆を業とする人が進んで言語改良に乗出し、實行すれば餘程よくなる。

今日普通用ひられてゐる漢字は二千字を越えてゐる。出来るだけ漢字を使はないやうにしても千五六百字は必要となつてゐる。その上に漢字には幾通りも読み方があり、中には十三通りもあるものもある。

私は以前から漢字を全然用ひないで文章を書いて見たいと思つてゐるが、中々難しい。併し片假名と平假名とをうまく組合せ、句讀點をよく利用すれば漢字を使はなくとも立派

に文章が書けるのではないかと思ふ。差當り地名や人名は全部假名にしてしまつたらいいだらう。地名も人名も符牒に過ぎないのだから、それで少しも差支へないわけである。

假名といふものは實によく出来てゐる。あれだけの文字であれだけの音を表すのだから便利だ。ローマ字よりも簡單だ。例へば「輕井澤」を假名で綴れば「カルイザワ」で五字で済むが、これをローマ字にすると Karuizawa と九字になる。電報のやうな用事はすべて假名で用が足りるのであるから、國民が一致してその氣になれば漢字全廢も不可能ではない。漢字を全廢し、片假名と平假名だけで用が足りるやうになれば、漢字を習ふために費される時間と精力は省かれ、國民全體として享ける利益は圖り知れない。

新聞社などでも外國では小さな臺が一つあればいゝ所を日本では數萬の活字を用意し、これに應じて多數の文選工や植字工を雇はなければならぬ。

私は先日東京帝大に講演に行つたが、學生中に眼鏡をかけてゐる者の多きに愕いた。眼鏡をかけてゐる生徒は小學校では數へるほどしかなく、中學から大學へ進むに従つて數が殖えて行く。この事實から見ても字畫の多い漢字が餘程禍してゐることがわかる。

日本では支那の漢字を真似るだけでなく、色々な新語を作つて、得意になつてゐるものもある。一軒家と云へばいゝ所を「獨立家屋」と云つて見たり、飛行機を入れて置く所が「格納庫」であるなど馬鹿々々しい話である。

口先ばかりの非常時氣分

新聞などには支那は弱いと盛に書き立てゝゐるが、あれは大きな間違ひである。支那は決して弱くはない。それは死傷者の意外に多いのを見ても判る。死傷者があんなに多いといふことは弱いためだといふものがあるが、反對に強いためである。

支那の貧弱な防備力から考へてもあれだけの死傷者があるのは當り前であるから、死傷者が多いのを見て直ちに支那は弱いと斷ずることは出来ない。死傷者が多いのは戦闘に際して死に就くのを厭はないといふ強い精神を持つてゐるからである。この意味で支那は意外に強いと云へる。

今日のやうな大戦争をやつてゐるのに國內の日本人は緊張が足りないといふけれども支

那が弱いといふことばかりを読ませたり、聞かせたりして置いて緊張させようとするのは元來無理な話である。

今日の國民の精神状態を日清戦争や日露戦争の當時と較べると雲泥の相違がある。殊に日露戦争は世界一流の強大國を相手にするといふので、國民の氣持は今とはマルキリ違つてゐた。國家が危急存亡の秋だとの考へは國民全體の腦裡に深く沁み込み、その積りで戦つた。

戦争が始まる前もさうだが、始まつてからもロシアは中々強かつた。日本は到る處敵を破つたけれども、多くは多數で少數を破つたのであつた。クロバトキンは軍人といふよりも寧ろ政治家であつたが、彼の後を承けて總司令官となつたりネヴィツチ將軍が全勝の算ありと稱してやつて來た頃は我が參謀部は大に心配した。

日露戦争當時の外交のことを書いた本田熊太郎氏の「魂の外交」といふ書物を讀んで見ても、日本が如何に苦境に立つてゐたかよく解る。

今度の事變では最初から支那を輕蔑してかゝり、國民は内心大におこつてゐる。國民に

緊張を説く連中もサツパリ眞剣味が足りない。カフェーや喫茶店などをいぢめてゐるやうだが、ソレより一層有害な待合などには少しも手が入らないさうだ。

酒を呑み煙草ふかして妓を招き

高く謡ふよ非常時の歌

日本民族の價值判斷

人物の鑑定が難しいやうに民族の鑑定も容易でない。自分の國を世界一であると思ひその國民を世界一の民族であるといふことは世界普通の人情であつて、餘りアテにはならぬ。

イギリス人はイギリス人が一番傑れてゐると思つて居るし、ドイツ人もフランス人もそれ／＼自國民が一番偉いと思つてゐる。昔の支那人に至つてはそれが最も甚しかつた。

公平に見て日本民族が世界一の民族であるとは云へないが、格別劣つてゐると思へない。世界一の民族であると思へないことは、今日まで世界的事業を残してゐないし、

世界的な大著述もない。

この點では支那の方に立派な事業があり、大きな著述もある。

私は明治十七年に始めて支那へ行つたが、西洋人がステツキで支那人車夫を撲るのを屢々見た。

それでも支那人はこれにも少しも反抗しなかつた。同じ有色人種である日本人も西洋人の眞似をして、車夫などを撲るが、彼等はいふ日本人にも反抗しなかつた。彼等は白人には到頭かなはないものとあきらめてしまつて、どんなことをされても忍ぶといふ習慣が出来てゐたのである。

ところが横濱あたりで、西洋人がこの流儀で日本人の車夫を撲ると、日本人は必ず反抗した。

しかも、その頃、日本は、今のやうな排外思想はなく、西洋崇拜の風潮が漲つてゐたのである。

も一つ日本人の長所はよく外國のものを吸収することである。この點では世界のあらゆる

る民族も日本民族には到底及ばないやうだ。思ふに日本には古來の獨特な文化といふものがないから固有の古い文化を持つてゐる支那のやうに頑固でなく何でも取入れることが出來たのである。

日本は支那からも學び、印度からも學び西洋からも學んだ。西洋から輸入した武器で支那と戦ひ、ロシアとも戦ひ、そして勝つことが出來た。

若し、日本が西洋から學ばずに、古來の武器で戦つたなら、無論アンナ勝利は得られなかつたであらう。

創造は勿論模倣よりは好いが、それは心理的に見る場合で、實用の上からは創造も模倣も同じことである。

創造したものであつても模倣したものであつても性能に格別の優劣がなければ飛行機は飛行機であり、その機能には變りはない。

日本はこれからもまだ、他から學ぶことを忘れてはならなく。

感情に陥り易い日本人

も一つ、これは日本人の長所とのみは云へないが、死を極めて軽く見ることである。これは戦争の場合などには大層役に立ち、日本人が強い原因となつてゐる。

かういふ習慣は如何なる理由から生じたかといふと、日本には天變地變が多く、日本人は常に生命の危険にさらされてゐたからであらう。地震、水害、火事、雷といふやうに、平生でも日本には實に危険が多い。

大陸的な國には、地震や洪水や雷は極めて少ない。火事もあまりない。大陸的民族が打算的であるに對し、日本人は感情的であるのもかういふ環境から來てゐる。天災の少い大陸はすべてが打算通りに進むから、大きな繼續的事業も出來るが、天災の多い日本では計畫を樹てゝもその通り實行出來ないことが多いから、二代も三代も續けて完成するといふやうな大事業は起りにくい。

かういふ環境に置かれると人は世の無情を強く感ずるので感情的になり易い。男女の心

中なども日本獨特のもので、西洋人はあんなことはやらない。

1108

頼りにならない肉眼

物を正しく観るといふことは中々六ヶ敷い。凡眼では見えない。私の子供で飛行機乗りの行輝と申すものが歐洲大戰後、シベリヤを觀て來ると云ふから、私は正しい觀方をよく教へてやつた。

やがて歸つて來たから、その様子を聞いて見ると、「アメリカは實に怪しからん」と云ふ。どうして怪しからんのかと聞くと、「アメリカの軍隊は到る所を占領してゐる、その證據には占領した所へ旗が立つてゐた」といふのだ。然るに事實は全くこれと反對で、アメリカが旗を立てたのはそこを占領する積りではなく、却て他國の占領を防ぐためであつた。故に戦争が終つた後、其占領地を全部ロシアに還付した。

此頃各方面の人が支那へ行くが、その報告を聞いて見ると、人によつていろ／＼違つてゐる。或る人は支那は非常に變つたと云ひ、或る人は少しも變らないと云ふ。或るアメリカ

カ人が最近支那について書いたものを讀んで見ると、私が五十餘年前に見た支那と少しも違つてゐないのに驚いた。

私が支那へ行つた時分は、支那は大層優れた大國であると我々日本人の間では考へられてゐたが、私が行つて見ると、支那の軍隊といふのは下ラを持つたり、提灯を下げたり、雨傘を背負つたりしてゐるのに驚いた。旗などは五人に一人位の割合で持つて居り大きな旗は角力取りのやうな大男が持つてゐた。その行軍を見ると、立派な駕籠が三つもつゞいて行くから、あれには誰が乗つてゐるのかと聞いた。先頭が七十餘りの指揮官で、第二、第三の駕籠にはそれ／＼第一夫人、第二夫人が乗つてゐると聞いてビックリした。

私は充分に視察する積りで行つたのだが、この有様を見たゞけですつかり支那が解つたから、豫定を切上げて歸國し、こゝで一撃を加へよと前述のやうに支那征伐論を主張した。日本の朝野は大層驚いたやうだ。出先の役人も軍人も意外に感じたらしかつた。併し私の主張は十年後に行はれ、その結果は日本の大勝となつたのである。

今日の支那は大分變つてゐると思ふ。人物もなか／＼優れたものが多いやうだ。

兎に角、私共の眼ほど當にならないものはない。この眼で目撃したのだから間違ひはないなどよく云ふが、其の眼が一番當にならないのである。これは私自身の経験だが、暫く外國に居て日本へ歸つて見ると、沿道の家が犬小屋が虫籠位にか思はれなかつたが暫くたつと、人間の家らしく見えるやうになる。

私の選挙區の人などが遇々東京へ來てから、歸りに四日市を見ると、どうしても四日市には見えない、どう見ても小さな田舎町としか思はれないさうだ。外國の宏壯な建物ばかり見た眼には、日本の家は虫籠にしか見えないのも當然である。それほど我々の眼といふものは頼りにならないものだ。事物を観るには肉眼によらず、心眼を開いて観なければならぬ。否愛憎好惡の念慮を排し、虚心平氣になつて観なければならぬ。愛國心の如きも觀察する時は一時之を停止しなければならぬ。無我無心で觀察し、其結果を運用するに方つて愛國心を基礎とすべきである。

次の世界戦争と兵器の進歩

私も既に相當の年齢に達してをる以上は、いつお暇するかも知らぬから、まだ命の有る間に御相談して置いた方がよからうと思つて、早過ぎるといふことを知りつゝ述べて見よう。

それは日本がこれから先どうなるかといふ問題である。小さいことはいろ／＼あるけれども、極く大きな問題としては、其うちに世界大戦が起るかも知れぬ。起つた時には日本が其仲間に入るか、入らぬかといふことは日本の盛衰といふよりか、寧ろ興亡——滅亡するか、生残るかの境目になると思ふ。

世界大戦の仲間に入れば、よし其仲間の方が勝つても殆んど半死の状態に陥るであらう。若し敗ければそれで滅亡するかも知れぬ。此前の世界大戦では滅亡した國もあり、又帝室のなくなつた國も五つか六つあつた。此次に大戦争が起れば、此前の大戦争より大仕事であることは、ハッキリ分かつてをるから、或はヨーロッパ諸國などは滅亡するかも知れぬ。ナゼかといへば戦さの道具が其後二十年間に大層進歩してをるが、各國ともそれを絶対秘密にしてをるからである。

例へばスペインの内亂は二年續いてをり、一方にはドイツ、イタリアが付き、他方にはフランス、ロシアがついてゐて双方とも兵器や兵隊を送つて助けてゐるが、一番いゝ新發明の兵器は、列國皆隠して置き、世間に知られて差支へのないものだけしか送つてをらない。従つて今日世界の兵器がどれだけ進歩してをるか分らない。スペインに送つた兵器だけに就いて見ても、此の前の大戦争の時より五倍、或は十倍も有效になつてゐる。

其五分の一、乃至十分の一の力しかない道具を以て戦争しても、死傷三千萬人に及び我が内地總人口の約半分に達して居る。若し此次の大戦争が起れば其十倍と見れば三億の死傷者が出来る。五倍と見ても一億五千萬の死傷者が出来て、ヨーロッパの國らしい國は、殆んど皆な滅亡状態に陥るであらう。

此大戦争の仲間に、日本が入れば、勝つても負けても、日本は東洋にをるだけに、ヨーロッパ諸國程の害は、受けないかも知れないが、相當の害は受けるだらう。

即ち國家として盛衰興亡の岐れ目に立つのである。故に其仲間入りをするか、しないか今からよく冷靜に考へて置かなければならない。

勝つても利益のなかつた戦争

而して一方では其大戦争が起る氣遣ひはないといふ見方もあるが、其反對に、列國現在のやうな道を往けば、必ず起るといふ想像もつく。一方の戦争が起らぬといふ方は、文明がこれだけ進歩して、人間の頭腦が、これ程進んだ以上は、もう此の前の戦さに懲りてゐるから、再び大戦争はやらないだらうといふのであつて、若し戦さが起つても、一局部に止まり、大したことはあるまいと見てをる。

現在支那で随分激しい戦さが始まつてをる。日本軍側にも相當死傷者が出た部隊もあるやうであるが、恐らく出た人の數から見ると其一割には及んでゐないのではないか、普通の地方では大抵二分前後である。

ところが二十年前のヨーロッパの戦争では、出た兵隊の、極く少いところで三割五分、多いところでは四割、五割といふ死傷になつてゐる。さうして勝つた方が、どれだけの利益を得たかといふと、一向利益は得てをらない。

此の前の戦争ではイギリス、フランス、アメリカが勝つた。日本も其勝つた方の仲間居た。けれども日本は唯仲間に入っただけで、戦さらしい戦さはしてをらない。青島でドイツの兵隊五千人を打ち破つたのと、海上で少数のドイツ軍艦を逐ひ廻はしただけである。それに反して軍需品を澤山賣つた爲め、戦争のお蔭で金儲けをした。二十億程儲けたのである。

此前のヨーロッパ戦争は、日本にとっては利益であつたが、ヨーロッパ列國は、勝つても何億といふ金を損して、人間は、出征軍人の三割乃至五割といふものを失つてゐる。イギリスは義勇兵制度の國であつたが、己むを得ず戦争中徴兵制度を布いた。イギリスの諸大學生徒は病人か、片輪の外は、皆義勇兵として出て行つたから各大學は概ね休校となつた。

日本は今古今未曾有の大戦争をしてをるといつてゐるが、まだ何處の學校も閉鎖してをらぬ。此一事を見ても、ヨーロッパの大戦争といふのが想像出来る。

ヨーロッパ人はさういふ大戦争を二十年前に實驗してゐる。さうして勝つた國と雖も別

段利益を得てをらぬ。フランスはドイツに勝つた運の好い國であるが、もう今ではドイツと太刀打が出来ない程弱つてをる。負けた方のドイツは戦さに敗けたが中々威勢が好い。唯一時經濟上非常に苦しくなり、通貨は百萬分の一位に下落して、國民は食ふことが出来なくなつた。それがために貴族や富豪のお嬢さんが、死ぬか生きるかの境目になつて、中には生きるために貞操迄賣つた。

當時日本の留學生で五百圓か千圓を本國から送つて貰ふと、それをドイツの通貨に換へる時、何千萬マーク何億マークの大金になるので、道樂三昧に日を暮したといふことである。ドイツは戦後さういふ悲境に陥つた結果、今日のドイツが出来たのである。人間は總て生きて行けないことになると、どんな奮發でもするのである。

窮乏の極、獨逸は蘇生

元來ドイツ人には平素一日に五度飯を食ふ習慣がある。朝極く早く茶かコーヒーを飲みそれから朝飯を食つて、晝食を食べる。午後の四時か五時に又食ふ。それから夜食ふ。そ

れを一日に一度より喰べないで大學に通つたといふ學生もある。戦さに敗けて非常に經濟的に弱つた。其揚句普通のやり方では迎も生きて行けないため、遂に今日見る如き社會組織をとるやうになつた。これが今日のドイツの状態である。

今の我國人中には何も考へないで、ドイツのすることは俺にも出来る。あのやり方が好いといつて、之を觀念的に眞似ようとするものがあるが、これは必ずしもよくはない。

それから又今日は文明が進歩したために、人間の道徳心が發達して來た。昔は戦さをして勝つといふと、相手の負けた方の人間を皆殺してしまつても一向差支へなかつたが、今は道徳心が發達した結果、自己の心が咎めて、それが出来なくなつた。のみならず生きて行けない國があれば、それが假令昨日の敵國であつても、媾和したら之を救つてやらなければならぬと考へるやうになつた。イギリスやアメリカは、戦後ドイツに金を貸して、生きて行ける工夫をさせたのである。

又アメリカは戦争に参加して、三百萬の兵を出し、戦さのために數十億弗の金を使つたが、一文の償金も一寸の土地も取らうとはしなかつた。我國人は「アメリカ人は利の外に

は眼中何物もない』といふが、其アメリカ人が戦さに勝つても、ドイツから償金もとらぬ、地面もとらぬといつた。ヨーロッパ諸國は皆ドイツから償金をとり、或は地面をとつた。日本も仲間入りをしてとつた。今日の發達した文明の空氣が、利の外に何物も眼中にないといはれたアメリカの人間を、其所まで變化させたのである。

戦争には懲りてゐる歐米人

斯くの如くにして一方には正義心が胸にある。戦勝の利益は自ら抑制する。同時に文明が進歩したから、無理をすれば相手が反抗する。どうしても無理が出来ない。つまり戦争に勝つた方も利益がない。さうして損害は非常に多い。ヨーロッパやアメリカにはまだ當時の戦争の惨害を知つてをる人が澤山生き残つてゐるから、どんなことがあつても戦さはしやくないと考へるのである。

此事實だけを見て歐米人を弱いと思ふのは大きな間違ひである。

元來肉食人種は、獍猛である。

動物を見よ、虎や獅子や鷲は肉食動物であるから獍猛であるが、穀食の鳥や獸は概しておとなしい。穀食の鳩や鶏はおとなしいが、肉食の鵓は小さいくせに鳩などを捕つて喰べる。

獍猛な鳥獸は皆肉食であつて、これは生理的理由に基づくものと思ふ。

白色人種は元來獍猛な人間である事は昔の武器を見ると分る。日本の武器は美術的で鎧なんかも戦さの役には立たないやうである。ヨーロッパ人の鎧は突いても斬つてもどうすることも出来ないやうに出来てゐる。日本のやうに緋緘だとか、卯花緘だとかいふやうな鎧は、繪に描けば優美であるが、戦さの役には立たない。先方の鎧を一見すれば實に獍猛な人間が着たものと、すぐに分る。

現在でも、アメリカ邊りの活動寫眞を見ると分るが、アメリカの田舎へ行くと何里四方一軒の家もない所が幾らもある。さういふ所に住んでゐる人間は、女でも盜賊を防禦するために、平素から鐵砲の稽古をしてゐる。獍猛な盜賊を防ぐために、女でも子供でも鐵砲の稽古をやる。日本人とは全く違つてゐる。

其獍猛な人間が文明進歩の結果として、大層變つて來た。戦さに勝つても、無理をすれ

ば自分の良心が咎める。ドイツが戦さに負けた。昔ならば負けたドイツ人が餓死しても、金や穀物を貸して救つてやるやうなことはしなかつたが、今日はそれをする。旁々戦さといふものは勝つても利益がない。負けた方も昔のやうにイジメられない。其ために勝敗の結果が、一寸分らなくなつてしまつた。そこで識者ならずとも、ヨーロッパ人はもう戦さには懲りくした。さういふ馬鹿げた戦さはしたくないといふのが全體の空氣になつた譯である。

世界戦争を防ぐ途

世界大戦争を豫防するには、どうしたら好いか、餘り難かしいことではない。冷靜に考へれば、誰にでも分かる。即ち世界列國が國內で行つたことを、國際的に行へば好いのである。

我が日本國も徳川の末までは、殆んど半獨立國にも似たる三百餘りの列國に分れてをつた。大名が各々兵を養つてをつて、武士といふものが一番貴いものとなつてゐた。凡ゆる

ことを戦さの犠牲に供した立て方をした。

つまり封建制度である。であるから封建時代には戦さは絶えない。唯徳川は僥倖にして二百何十年間太平を保つたが、これも謂はゞ休戦状態であつて、本當の平和ではなかつた。薩摩と肥後との國境では常に戦さの稽古をしてをった。それが明治の御維新に依つて封建制度が倒れて、文明の國家となると、其軍備を撤廢して、かつては天地の間に容れられない仇敵のやうな觀念を持つて、相對してをった薩摩人と肥後人とが仲よく一緒に暮すことになつた。

さうして物事を争ふ場合は、武力に依らず、道理で争ひ、裁判で決めることになつた。これは物質的及び精神的進歩の結果である。交通機關の進歩から有形的に餘儀なくされた。明治以前であつてはどう急いでも二十里先の人と話するには一日かゝつた。急飛脚を立てゝも、二十里先へやるには、一日を費したが、今は何千里先の人と話をするにも、一時間か二時間で出来る。世界が大層小さくなつた。昔の百分の一、千分の一よりも小さくなつた譯だ。日本も斯んなに小さくなつてはお互に兵を養つて戦争の準備をしてゐては、満

足に生きて行くことが出来なくなつた。どうしても日本國全部が一體とならなければならぬやうになつた。

人間の精神状態が變らなくても、文明進歩の結果さうならざるを得ないのである。精神的にも此小さな國內で同胞兄弟が戦さをするのは愚なことを悟つた。戦さを止めて道理で決めようぢやないかといふことになつた。其一例としてアメリカを觀るとよく分る。

アメリカは初め獨立國が十三あつた。アメリカの州といふのは、皆獨立國である。それを建國の人達が相談して半獨立國の權利を與へて、憲法は銘々に持たせて、それを纏めて一つの政府を作り上げた。今日では其半獨立國の州が四十餘りになつて全く一ツの國家を爲してゐる。

歐洲も合衆國を作れ

して見ると、人間程他愛ないものはない。一寸した扱ひ方で、命懸けの喧嘩もすれば、兄弟のやうに仲よくなることもある。

それに反して南アメリカの方は、未だに年百年中喧嘩をしてゐる。子供でも學校の寄宿舎などで、東と西とに分れてゐると仇敵の如くに喧嘩をするが、寄宿舎を一つにして置くと、仲よく暮す。北アメリカの四十八州がそれである。南アメリカの方は別居してゐるから、今でも喧嘩をしてゐる。ヨーロッパもヨーロッパ合衆國を作つて、一つになるが好いのである。

此議論は學者が唱へるだけでなく、一流の政治家も唱へてをるのである。生きようとするれば今の儘では行けない。今のやうでは總がて戦争が起つて、人間が滅亡する。國は自然に消滅する。

現在でも國際間は無政府である。國の内には政府があるが、國際間には政府がなく、全く亂世である。國內には政府があるから、内に對しては軍備は要らない、警察力で充分である。

國際争議も、凡べての國內争議の如く、道理に基づく所の裁判で決める事にすればも軍隊も要らず戦争もなくなる。國際聯盟は其第一着手として設けられたものであるが今はそれが破壊されつゝある。

それが破壊されつゝある。

今もし途中で過失を悟り、改めて、元の道に戻つて、争ひは裁判で決める、道理に依つて決めるといふことになれば、文明はますます進み、人類は幸福になる。それに反して今の儘で押して行けば、嫌應なしに總がて大戦争が起るであらう。何方に行くかといふ今が其岐れ目である。それ迄にはまだ五年か十年かゝるであらう。

それが決まるのが見たいために私は今頻りに五年、十年生き延びる工夫をしてゐる、これ迄働いて、其結末を見ないで地獄か、極樂かへ行つてはつまらないと考へて、無理に生き延びる工夫をしてゐる。其外に別段生きてゐる楽しみはない。世界が生きる方に進んで行けば、日本もこれに順應して行くから世界と共に繁昌する。東洋では特別に繁昌するであらう。

若しさうでなくして歐米列國が滅亡への道を辿るとすると、日本が其中に入るか入らぬかといふことは、我が帝國興亡の岐れ目である。

日本はどうすべきか

現に此間もヨーロッパはチエツコの問題で殆んど戦さが始まりさうであつた。チエンバレンがあれだけの働らきをしなければ多分戦さになつてゐたであらう。

當時日本の新聞を見ると、戦争が起れば是非其仲間に入らなければならぬといふやうな書き方が大層多かつた。外務省の聲明書などもやはりさういふ風で、チエツコが悪い、ドイツの言ひ分が正しいといつてをつた。あの時ヨーロッパに大戦争が起つてゐたら、日本はドイツ、イタリアの仲間に入つたらうかと思ふ。

あの時私は心配で夜も三日ばかり眠られなかつたのである。

私は二三の人々に説いたのだが、效能はなさうであつた。幸ひ戦争は起らずそれは済んだけれども、又臆がて來ると思ふ。

其來た時にどうするか、それを今から十分に冷靜に研究願ひたい。ドイツでもイタリアでも、軍備と離すべからざる經濟力の弱い國である。戦さが長くなれば、其經濟力が弱る

であらう。武力で勝つても、經濟力で敗れば、降参するより仕方がない。此前の戦争の時のドイツがさうであつた。戦争には負けなかつたが食物が不足して遂に降参したのである。ドイツ、イタリアが一緒になつて動けば、それに反對するのが、イギリス、フランスそれからロシアである。臆がてアメリカも其仲間に入るだらうと思はれる。

日本がドイツ、イタリアの方に加擔すれば、それで世界の國らしい國は、皆敵、味方に分れて戦ふことになる。

日本からいへばドイツ、イタリアを味方にする代りに、米、英、佛、露と支那をも敵にしなければなるまい。味方は二ヶ國、敵は五ヶ國となるであらう。

ドイツはロシアを牽制することは出来るであらう。イタリアは本國の方が危いから此方に力を伸ばすことは困難だが、地中海やスエズ運河等でイギリス海軍力を滅殺することは出来やう。兎に角日本は此五ヶ國を相手にして戦はなければならぬことを覺悟して置いた方がよい。

次の戦争と獨・伊

此次の世界戦争が起れば、大體ドイツ、イタリーの勝敗は断定出来ぬ。日本が其仲間に入れば、日本も不利な立場になるのではないか、然し私は勝敗には、餘り重きを置かない。軍事的に考へれば、勝つといふ事に重きを置かねばならぬが、勝敗は中々分らないものである。軍事は軍人に一番よく分かる筈だが、それすら時には間違ふ。

此前の歐洲大戦争の時に、私は内閣に居たが初めからドイツ側が負けと見て、山東省から、ドイツの勢力を駆逐するため、一日も早く日英同盟の誼に依つて参戦すべしと主張した。然し多くの軍人は元老を始めとし、ドイツの勝利を信じてゐたやうだ。ヴェルダンの要塞はドイツが非常な兵力を以つて攻撃したが、中々落ちない。これが大問題になつてゐた時、貴、衆全院の議員は、後樂園で、陸軍將校の講話を聞いた。其軍人が「ヴェルダンはやがて落ちやう」と云ふ講話の未だ終らない内に、ドイツが降参をしたといふ電報が到着した。それ位戦さの勝敗は、分かりにくいものである。

此次の大戦争も普通の人間には分らない。どうか、諸君もこれを記憶してゐて頂きたい。

私は勝敗に拘泥して、日本が不利な立場に立つてはいかぬといふのではない。時には不利と知りつゝ入るのも、人間の義としてやらなければならぬ場合もある。勝敗の如何に拘らず、私は次回の大戦争に参加しないことを切望する。大戦争が始まつても、日本が其仲間入りをしなければ、ヨーロッパ列國は大抵自滅し、日本は大層樂になると思ふ。軍需品などは幾らでも賣れる。

世界戦争の仲間入りはよせ

一寸わき道に這入るが、今日の軍需品は、政府の補助に依つて、作られてゐるやうだ。前線の將兵が非常な惨苦を嘗めて戦つてゐるのに、政府の補助によつて軍需工場を經營する資本家は二割、三割、甚だしきは四、五割の利益を得てゐるさうだ。利益金全體を國家に献上する位の心懸けがあつて然るべきだと思ふが、さういふやうな資本家はまだないや

うだ。僅か二三百萬圓も献上すると、新聞は大仰に書き立てる。何千萬圓も儲けて其中から二、三百萬圓献金するのは、何でもないのである。我國には食ふことの出来ない人間が中産階級以下に可なり多いが、他の半面には待合入するお客さんが殖えてゐる。藝妓も殖えてゐる。

苟も今日の時局を考へたなら、日本人として待合などへ往ける筈がない。子弟がカフェーへ行つてはいかぬといひ乍ら、其父兄は待合に行つて藝妓遊びをしてをる。東京では上流社會のみならず、下等社會の人々でも軍需工場で働けば賃銀が澤山取れるために、待合入りをするものが多いといふことだ。

一方には食ふことの出来ない人が澤山あるのに他方では待合、藝妓が繁昌する。それで學國一致などといつてゐる。何のことか私には分らない。殉に容易ならぬ時勢である。

それは兎に角他日ヨーロッパに大戦争が起つた場合に、其仲間に入らぬといふことは今から本氣になつて研究して置いて頂きたい。戦さが起らなければ幸ひだが、ヒョツとすると起る。迂濶に其仲間に入つたら飛んでもないことになる、といふことをよく考へて置いて貰ひたい。

て貰ひたい。

ドイツ人の長所と缺點

もう一ツ言つて置くが、ドイツでも、イタリーでも、他に求められない善い所がある。第一ドイツ人は非常に質素である。儉約である。これ等の點は我が國人の學ぶべきことである。又此ほどドイツから來た青年の體格が非常に好い、眼鏡をかけてをるものは一人もなかつたさうだ。

日本では大學生の三四割は眼鏡をかけてをる。概して我が國人の體質は甚だ悪いが、尙ほ一層悪るくなりつゝある。

今日の如く獨伊と接近親交するに方つて注意すべきは、忠義心の問題である。ドイツは初め三十幾つかの國家に分れてをつたのを、ビスマークが聯合させて愛國心を鼓吹したため、遂に一致團結するやうになつたが、忠義心は餘りない。忠義心はイタリー人にも、ドイツ人も稀薄である。

日本では忠義心が國家の中心勢力になつてゐる。我が將卒が戰場で討死をする時には、必ず「天皇陛下萬歲」を唱へる。さういふことはドイツやイタリーにはない。ドイツ人は此前の戦争當時迄は、皇帝を神様として頂いてをつたが、戦争に負けて皇帝は和蘭に逃げ込んだ。現に目の前に流寓してゐられるのに、之を迎へて再び皇帝に仰がふとするものはない。驚くべき次第ではない乎。

其皇帝は、ビスマークが立派な皇帝に作り上げようと思つて、少年時代から、教育したのであるが、即位の後には、段々ビスマークに反對するようになって遂に之を辭職させた。後幾年か経てから、皇帝も其過ちを悟つて、仲直りをしようと思はれて、御自分の肖像を贈られた所、ビスマークはそれを見て「そんなものは、厩舎に懸けて置け」といつたさうである。

さういふ氣合がドイツ人中には随分あるものと見える。昨日迄は神様として崇めてをつた皇帝も、一朝蹉跌して亡命すれば、殆んど顧みもしない。

兎角ドイツはやりの今日、もし斯んなことにカブレでもしたら大變である。古い支那の

言葉に「愛して之を見れば、痘痕もエクボに見える」といふことがあるが、右の如き痘痕をエクボと見違へてはならない。

獨、伊、心酔はいけない

元來、獨裁政治は、皇帝があつては、出來悪いものである。強い者が自分勝手にやるのが獨裁政治である。イタリーには皇帝はあるが、實際はあつても無きが如きもので、ムツソリーニ首相一人で何でも勝手氣儘にやつてをる。ムツソリーニ首相がさういふことをしても、イタリー人はそれを平氣で見えてゐる。萬一こんな事にカブレるやうなことがあつては、日本の根本が動搖する。

明治の初め頃は、伊藤公なども、大のドイツ心酔論者で、何でも彼でも内閣の作り方までも、ドイツの眞似をした。私共がそれに反對すると「國賊」呼はりをしたものである。併し其伊藤公も後では其過誤を覺つて、我々の主張通り政黨内閣に賛成したのである。あれ程の人物でもドイツ心酔のため幾多の過ちを冒した。況んや今日のワイ／＼連中が

一から十迄彼等の爲すところを善いと思つて、騒ぎ廻るのは、別に怪しむに足らない。私は強て之を咎めはしないが、唯國家のために非常に危険と思ふのである。

前にも述べたやうに我が國人は片走りをするクセがある。好きになると、善惡を問はず直ぐ眞似をする。善いことは無論眞似て宜しいが、悪い點はさけなければならぬ。

私が見るところでは、ムツツリーニ首相やヒツトラノ總統の仕事には學ぶべきところも多いが、無理もある。彼等はやり損つても、自分一人だけの責任ですむが、日本ではさうは行かない。

神武天皇以來、連綿繼續して來た所の由緒ある日本が、やりそこなつた時は飛んだことになる。其邊のことをよく考へなければならぬ。彼等の悪いところにカブレないやうに注意する必要がある。

それから尙ほ一ツ考へて置いて貰ひたいことがある。現在はドイツもイタリーも大層我が國に好意を寄せてゐるが、兩國の獨裁者は「人種」といふことに、非常に重きを置いてゐる。

彼等の思想は結局「アリアン人種以外のものは相手にすべきでない」といふのが根本であるやうだ。同じ白色人種でも、猶太人をば排斥して、片ツ端から放逐してをる。況や黄色人種に對して差別觀念を抱くのは怪むに足らない。

彼等は人種的純潔といふことに非常に力を入れ、雜婚をも禁じてをる。異人種の血を混ぜてをるものは、役人にはしないと云ふほどである。先年オリムピック大會開催の時も、ドイツには、アジア人の参加を拒絶しようといふ議論が随分盛んに行はれた。今日は互に必要上兄弟同様交際してゐるが、やがて其必要がなくなれば、いつ何時人種的差別觀念を實行するに至るかも知れない。此點も十分研究して置く必要がある。

敗戦日本の更生

二三四

新生日本の種蒔き

新しい日本を作るには、どうしても日本人を根本的に作り直さねば駄目である。婦人に選挙権を與へても、有権者年齢の引下げを行つても、今の儘の日本人では到底駄目だと思ふ。最近までの學校教育は特にひどかつた。軍閥や獨裁政治家が自分の御都合から學校に於ても、言論機關に於ても「古へに復へれ」と盛に復古精神を強調し、誤れる祖國觀、民族觀を普及し過ぎて居た。其上學校では全然不合理のことや嘘ばかり教へて居た。復古精神の中にはよい所もあるが、悪用し曲解されては大變なこともある。殊に私は現在文部省が公認してゐる國定教科書の日本歴史は、全然嘘とは申さぬが、餘りに非科學的で不完全極まると思ふ。歴史は國民精神の基調をなすもので虚偽の歴史の上に立つのでは、一切が嘘にならざるを得ぬ。故に私は先づ日本國民に正しい歴史を教へることが急務であると思ふ。

へてゐる。正しき日本歴史を教へて、新しい日本人を作ることが必要であり、大切なのである。

復古の精神は純潔純粹を尊ぶので、徒らに古へに復れでは、無意味であり文明への逆行だ。例へば千年前の日本には文字も言葉も極めて尠なかつたし、文化も非常に低かつた。大古へ歸れば猿に近かつた人間生活に還れでは困るではないか、復古主義者の主張には、よく氣をつけないと危険がある。然るに最近までの日本は誤つた復古精神が餘り宣傳され過ぎて革新論者と稱する者が全部革新と復古精神の不可分を信じ、口を開けば神武 皇の昔に還れ、八紘一字の建國精神に戻れなど妙なことばかり得意になつて叫び、國民は此の思想に誤まれて來た。

今日日本は國家滅亡と云ふ大事に遭遇してゐるのだから、一切の舊來の誤りを清算し新日本を創建し、また舊來の考へ方は片ツ端から是正し「新しい日本人を作る」ことを目途とせなければならぬ。此の仕事は容易でなく何年も何代もかゝるであらう。私は其の種まきだけでも今日に於て果したく思つて居る。

歴史の嘘を正せ

日本の歴史がやゝ正確に明瞭になつた時代、即ち明治維新前の日本は支那化日本、支那式日本であつたことを何人と雖も否定出来まいと思ふ。例へば日本人に取り一番大切な教育勅語にせよ、あの中よく忠によく孝に、國體の精華を發揚すべしと云ふ有名な御言葉にしてからが、全部支那の言葉であり支那の文字ではないか。仁、義、禮、智、信——みな支那語である。明治維新前の日本は支那化日本で若干印度佛教の影響を受けて居つたと云へやう。極端に言へば支那文化、印度佛教渡來前の日本には有形物に就てすら言葉も文字もなかつのではないか、馬——之れも日本語にはないやうだ。梅もさうだ。支那文化渡來前の日本は、動物とか草木とか言ふ大ざつばな表現、言葉だけはあつても、其中の個々に就ては言葉や文字がなかつたやうに信ぜられる筋が多い。菊と云ふ文字は、日本に取つて、非常に大切に菊は皇室の御紋章でもある。だから菊は日本古來のものかと思つたから昔私が相當念を入れて調べて見たが矢張り日本語にはなかつた。日本主義者や神道家達は

日本の歴史を自慢し、またさういふお國自慢には誰も賛成するものである。しかし我々は日本の歴史が科學的眞實の基礎に立つことなしに、日本人だけに盲信され自慢されて居た事實に對し、冷靜な反省をなすことが必要である。

私は日本民族と云ふものは恐らく、南方よりの渡來民族であつたと信じて居る。北からも來て居るが大部分南方から來たものに相違ない。其の證據に宮中に於ける諸儀式が驚く程南洋の古代儀式に似て居り、其純粹な姿で傳へられて居る。私は大臣としての御即位の御大儀に列し、又御大葬にも參列したが、それは何れも眞夜中の三時に行はれるのである。然かも御式中陛下は二度も三度も御身を水で淨められる。嚴冬に於ける此の御儀は實に大變だ、陛下も嘸御苦難に在さうが、參列の諸臣も容易ではない。私など果して生命が持つかどうか心配した程であつたが、研究して見れば何のことはない。南方では非常に暑く、重大な儀式は眞夜中の二時か三時でなければやれないからさうなつて居たのだし、式中身を淨めるのは暑さで汗が出るから二度も三度も式服を改めるので、其儘のことが宮中に御慣はしとして傳つて居るのである。其他色々のことが傳承されて居るから私は日本民族は

南方渡來民族が大部分であると信じて居る。

古事記及日本書紀、之れは日本人に取つて大事な史書となつて居るが、古事記は若干日本式の所もある。然し書紀に至つては全然支那式で私にはどうしても日本の史書として、科學的に信用出来ない。二千六百年の基礎をなす歴代天皇の御在位年數にしてからが、今日の日本人が科學的歴史觀の上に立つて検討すると随分妙な所がありやしないか、文字のない前の歴代天皇の御在位は、何れも非常に長いが、あれを多數の國民はどう眺め、どう感じて居るであらう。

私は信ずる、古代日本には他國同様に、今日の如き曆數はなかつたに相違ない。即ち人類文化史を案するまでもなく、人間は、始め一日を一年と稱したらしい。次には月で數へたやうだ。昔の一年は決して今日のやうな三百六十五日ではない。現に日本の史書にも何天皇の時であつたか、同じ八月が非常に暑かつたり、寒かつたり、時には雪が降るやうなことがあるが、之れでは困る。八月は暑いもの、三月、四月は暖いと云ふ具合ならぬものかと云ふ意味のことを、側近の朝鮮人の博士に御下問に相成つた。然るに其の博士は

「誠に御賢明な御質ねで、臣等恐懼に堪えません。早速取調べの上御期待に副うやうお改め致します。就ては相當の年月と博士六七名を動員研究致します。」と奉答し莫大な豫算をせしめて、十二月が一年と云ふ、やゝ現在の如き曆を作成したことになつて居る。即ちそれまでは十ヶ月が一年であつたやうだ、八月が暑かつたり寒かつたりしたのはそれがためだ。人間の指が五本づゝだから五とか十とかが單位として覺えるに都合がよかつたのだ。子供はよくいまいくつ寝ればお正月が來ると指を折つて數へるが、あれを想像すればよい。十二月を以て一年と定めるまでには相當の年月を要したものである。人類文化向上の跡を訊ねると斯様に遅々たるものでコヨミはカヨミ（日讀）の變化だと云ふ學説もあつて、古代日本は他の國のやうに一日を一年と數へて居つた時代があつたやうである。此故に文字が出來てからの天皇の御在位は、急に其前の天皇に比較すると半分以下になつて居るのは當然である。斯う云ふことが歴史に明瞭に書いてあるにも拘はらず日本人は平氣で二千六百年を金科玉條として、盲信し且つ自慢して居るのだから私は「實に困つた國民だ」と思つて居る。

日本人改造の根本策

二千六百年の歴史が、如何に不完全なものであるかと明瞭に分つて居りながら不思議とも何とも感じない、従つて、かつて経験したことのない敗戦と云ふ大事に遭遇しながらも一向敗戦の事實も感ぜないやうな日本人——此の日本人に世界人並に物を感じるやうにしてやらなくてはならぬ。何故日本人が斯様に感受性がないかと云へば、前にもお話ししたやうに日本人の頭が漢字と云ふゴミが一杯につまつて居るからで、どうしても頭を掃除してやらねば駄目だ。小學校だけで漢字を千五百位は教へねばならぬし、新聞も二千字ではどうしても出来ぬとある。然かも一字々に読みがあり音があるのだから、漢字を覚えるだけで日本人はすつかり疲れてしまふ。然かも漢字は三角から四角甚だしいのは二十角もある難かしいものだから困つたものだ。英語なら二十六文字で、何でも書け、然かも三千語位で何事も足りると云ふから比較にならない。單に文字だけで西洋人よりも十倍二十倍の努力を必要とするのだから日本人は實に氣の毒である。私は何時か専門のお醫者に調べて

貰はうと思つて居るが、人間の頭も胃の腑のやうに、最初悪いものが一杯入つて居ると、後からうまいもの、栄養になるものを送り込んで、入らないのと同様に漢字と云ふゴミが一杯づまつて居るから他のものが入らないのではないかと考へて居る。私は民主主義、議會政治のため五十五年一日の如く働き続けたが、結局駄目であつた。此儘の日本人では百年やつても駄目のやうに思はれる。どうしても日本人を作り直さねば駄目だ。其上三代目になつた日本人は皆頭が狂つて居る。世界に神國日本程強くよいものはないなど盲信し已惚れて、遂に國を滅亡させてしまつたのだ。

すつかり感受性を失つて居る日本人に對し先づ何をやつたらピンと一番響くかを研究し私は速かに改元せよ、改元することが一番妙案だと云ふ結論に到達し近く議會其他に正式に提案することに決意した。

改元と云ふことは實は、之れも支那の眞似で本質的のことではないが、年號を改めると國民がピンと思ふからだ。然かも其年號は明治、大正、昭和と云ふやうに堯舜の頃の典故に據らず現代にふさはしきものとなしたい。最近の日本は、年號は天皇御一代限り、

一代毎に改元して来たが、支那では吉凶の度毎に改元が行はれて来た。私は其の眞似をさせやうと云ふのではないが、改元と云ふことは全國民に老幼賢愚の差別なくピンと響くか、これをやらせたいと思ふ。どう改元するか、具體的、技術的のことは専門の權威者にお願ひするが、其の精神は從來と根本的に變つて居らなければいけない。「降服元年」とか「敗戦第二年」とか「滅亡一年」とか云ふ年號でもよいと思ふ。或は「新生日本第一年」と云ふ意味のものでもよいかも知れぬ。其他「降參元年」「民主々義元年」「興國元年」色々のことが老へられるが、要するに之れをやれば——之れをやることに依つて國民に嚴たる敗戦の事實を認識させ、新たな覺悟と決意を持たせたいのである。混亂日本の實相を眺め、私は容易ならぬことと考へて居る。改元は國民一人残らずに分る點を私は注つてゐるのだ。

次は漢字の全廢である。此事は前回も詳細申上げてあるから省略するが、漢字から日本人を解放せぬ限り日本人は到底世界人並になれない。一刻も早く漢字を全廢しなければ不可ない。然し漢字に代はるものは急に出来ないから、一時の暫定方法として當分片假名と

ローマ字だけにして置き、其の双方を教へ、どちらでもよい方を使はせて置くがよいと思ふ。其内に世界の權威者を動員し、日本が世界語を發明し全世界を同文同語になすべきである。斯の如き角度から日本は世界文化に貢獻して行かぬと、日本の位置は國際間に恢復しない。今英國では八百語位で聖書を書き直す研究をしてゐると聞くが、英語は日本語よりも非常に便利で、此點だけでも日本人は英國人に太刀打が出来なかつたのである。即ち第一に改元をやる。第二に漢字を全廢する。此の二つのことを即刻實施すべきことを提唱する次第である。

法令無視を戒しむ

最近天皇制の論議が盛になつた。吾々は聯合國の手に依つて言論の自由を恢復し、天皇制に就て随分思ひきつた言論をなすことが出来るやうになつたが、一方に於て今尙ほ治安警察法が撤廢されずにある。治警法の嚴存する限り、天皇制の論議には一定の限界がある。然るに今日は治警法を無視した極端の論議が活潑に展開してゐるが、之れは困つたこ

とである。

二四四

凡そ法令の無視は亡國の因であつて、言論の自由を保證するなら速に治警法を撤廢せなければならぬ。手落は寧ろ政府側にあるが、最近に於ける法令無視の風潮は之を是正しないと遂に亡國の因たることを銘記致すべきである。

次に天皇制について云へば、日本は皇室と共に榮え共に衰ふべきものと確信するが、現在の如き皇室擁護の諸法令程逆に皇室に害をなしてゐるものはないと思ふ。例へば統帥權の問題、あれなども憲法の何處を見ても天皇の大權として特別のことは規定されて居らない。然るに特別の如く取扱はんとなし、無暗に天皇を神聖視せしめんとして來たのが間違ひである。

日本の天皇は法によつて守られる諸外國の王などとは異なり、その盛徳によつて萬民は景仰し尊信しなければならぬと確信してゐる。故に私は皇室財産の御制定に當つても當時新聞記者としてこれに反對したのである。今日も日本の天皇は法律に依らずしては守ること能はずといふやうな貧弱なものにあらざることを前提とし、制度の改正をなすことが

必要である。共產主義、社會主義にしても、日本では頭から、悪いものと極め過去に於ては強壓し、多くの犠牲者を出したが之れなども大變な誤りで必ずしも悪いものではないのである。之れから文化が進めば進む程多少は共產主義、社會主義を取入れなければならぬのであり、殊に新日本の指導者は米英流の民主々義とロシア式の共產民主々義とに正しき理解なしにはやれぬと云ふことを知らなくてはならぬ。

— 完 —

不許復製



昭和二十一年七月十日印
昭和二十一年七月十五日發

刷行

隨想錄 奧附

定價金拾八圓 (稅込)

著者 尾崎行雄

東京都神田區駿河臺二丁目五番地

發行者 伊藤隆文

東京都神田區神保町三丁目二九番地

印刷者 明和印刷株式會社

東京都神田區駿河臺二丁目五(文化學院內)

發行所 株式會社 紀元社

振替東京 九〇七七番

電話神田(25)三〇三〇番

東京都神田區淡路町二丁目五番地
元給元 日本出版配給株式會社

(A 211043)

